

第八章 在日日系ブラジル人と在伯日系人の移民過程の比較考察

一 はじめに

国境を越える移民過程は地理的移動をもって終了するものではない。移民がホスト社会に移住して、そこに適応し、融合し、その社会の構成員になるまでの結合過程には長い時間を必要とする。場合によっては何世代も経て、ホスト社会の構成員と同等の待遇と資格が得られることがある。

日本からブラジルへの移民が始まったのは一九〇八年のことである。それから百年が経過した。日本移民は苦難の道を行ってきたが、今日ではブラジル社会に適応し、その構成員としての承認を受け、元移民の子孫も熱心にブラジル社会に参加して重要な役割を果たし、相当な地位を与えられるようになった。

一方、ブラジルから日本に移住する日系人のデカセギが始まったのは一九八五年頃で、四半世紀が経過し、ようやく彼らの存在が認められるようになった。しかし、二〇〇八年末以来、在日日系ブラジル人の派遣・雇止め、生活難、帰国等、デカセギの生活上の問題が発生し、デカセギのネガティブな側面が大きく報道され、社会問題化した。デカセギはブラジルの日本移民のように、ホスト社会への適応、融合が十分でなく、構成員としての承認を受けるに至っていない状態にあり、関係者は対応に追われた。デカセギはホスト社会である日本のコミュニティへの結合過程の初期の段階にあり、ホスト社会住民とデカセギ移民と

の社会的・心理的距離はまだ開いたままの状態である。多文化共生、日伯共生の在り方が問われているところでもある。

日本からブラジルへの移民過程、ブラジルから日本への（デカセギ）移民過程の二つの移民過程を比較考察する時、両者の過程には共通するものがある。日本からブラジルへの移民過程が先行しており、この過程はすでに完了していると考えられるが、ブラジルから日本への移民過程は現在進行中のものである。今後、在日ブラジル人がホスト社会に受け入れられ、日本社会の構成員として承認され、ブラジル人が日本社会に熱心に参加することによって、残された移民過程を完結させていくことができる。この論考は、日本からブラジルへの移民過程を参考に在日ブラジル人の在り方について考察することを目的とする。

二 移民過程としての三つの段階

日本からブラジルへ移民した日本移民のブラジル社会への結合過程（統合過程）もブラジルから日本へ移民したデカセギの日本社会への結合過程（統合過程）も次の三つの段階を経過していくものである。

- a、移民の初期段階
- b、ホスト社会への融合の段階

<p>参考資料</p>	<p>一体感・連帯感</p>	<p>日伯社会の合意と 責任遂行</p>	<p>移民過程の諸段階</p>
<p>①初期移民の状況 コロナに身を起こし。</p>	<p>ブラジル社会との一体感・連帯感はない。</p>	<p>ホスト社会は日本移民を コロナとして認めた。日本 移民の目的は錦衣帰国で あった。日本人のアイデン ティティをもったまま あった。</p>	<p>移民の初期段階</p>
<p>②日系人の教育レベル 教育が社会階層上昇をも たらす。</p>	<p>連帯感・一体感が芽生え始 める。</p>	<p>ホスト社会への融合段階 日本移民はブラジル社会 に参加した。多くは二世三 世の世代になって言葉を 克服し高等教育を受けた。 アイデンティティは日本 とブラジルの多重的なも のになった。</p>	<p>ホスト社会への融合段階</p>
<p>③二世三世の学歴と主職 ブラジル社会の中核で活 躍する。</p>	<p>ブラジル社会に強い一体 感・連帯感をもつ。</p>	<p>ホスト社会の構成員段階 ブラジル社会の構成員と してホスト社会の人と対 等な評価を受けるように なる。アイデンティティは 多重的であるが、日本の影 が薄くなる。</p>	<p>ホスト社会の構成員段階</p>

<p>各段階の移民の状況</p>	<p>移民過程の諸段階</p>
<p>日本移民はブラジルのコ ミュニティではマージナ ルな集団として存在した。 日本人会を通してブラジ ルに関与した。</p>	<p>移民の初期段階</p>
<p>言葉の問題を克服してブ ラジル・コミュニティに参 加する。特に二世三世に なってホスト社会との融 合が進む。ホスト社会に参 加すればするほど日本人 会から離反する。</p>	<p>ホスト社会への融合段階</p>
<p>ホスト社会は日系人を積 極的に受入れる。対等の地 位や役割を獲得し、ブラジ ル社会の構成員になる。</p>	<p>ホスト社会の構成員段階</p>

第1表 日本移民の移民過程の諸段階（一九〇八年に始まり百年の過程を歩む）

三 ブラジルの日本移民の場合

c、ホスト社会の構成員段階
この三つの段階は各々第1表、第2表に示すような状況下にある。